

マイクロソフトオフィスと互換性を持つフリーソフトが登場!

最新版 1.0.1 に対応

OpenOfficeのプロになる7つの技

マイクロソフトのオフィスシリーズと互換性を持つ無料ソフトOpenOfficeが話題を集めている。この日本語対応やマイクロソフトオフィスとの互換性の程度、使い方のコツを紹介しよう。

text: 藪 暁彦

OpenOffice3つのアドバンテージ

粋なオープンソース

なんてたって無料

マイクロソフトオフィスで作ったデータが使える!

 OpenOffice 1.0.1 を、付録 CD-ROM に収録しています (282 ページ参照)

StarOffice から生まれた注目のフリーソフト

「OpenOffice.org」(以下、OpenOffice) は、名前が示すように、オープンソースで作られた統合ソフトウェアで、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションツール、ドローツール、HTMLエディターと数式エディターの6種類の機能を備えている。

使う側にとってうれしいのは、無料で利用できることと「マイクロソフトオフィス」(以下、MSオフィス)との互換性。ほかの人とファイルをやり取りするには、作成した文書の互換性は不可欠だ。

1999年8月、サン・マイクロシステムズは、ワープロ、表計算、データベースやプレゼンテーション機能などを持つ「StarOffice」を開発したドイツのスターディビジョンを買収。StarOfficeをMSオフィスの対抗ソフトと位置付け、この無償配布を始めた。その後、サンはデータベースなどStarOfficeから一部の機能を除いたものをオープン

ソース化した。

OpenOfficeはこれをもとにサンが設立し、オープンソース関係者やソフトウェアベンダーなどが運営する「OpenOffice.org Foundation」によって開発された。一方、サンは5月にリリースした「StarOffice 6.0」を有料化。日本では商標の関係で「StarSuite」の製品名で6月から販売が開始されている。

StarOfficeとOpenOfficeの関係は、「Netscape」と「Mozilla」の関係によく似ている。つまり、OpenOfficeに寄せられた意見や要望が、StarOfficeの開発に反映されるのだ。OpenOfficeの最新版1.0.1は英語版が7月17日にリリースされ、日本語版は翌週の7月25日にリリースされた。まだ完全とは言えないが、縦書きをサポートするなど日本語への対応も前バージョン1.0に比べると着実に進んでいる。



OpenOffice.org 日本非公式ユーザー会  に最新情報やオフィスの情報がここに集約されている。また、最新版とソースコードは OpenOffice.org のサイト  から入手できる。GPL に基づき基本的に無料だ。

 wings.raindrop.jp/openoffice/03uzgj/

 www.openoffice.org

マイクロソフトオフィスと互換性を持つ6つの機能

OpenOfficeの6つの機能には、それぞれ「OpenOffice.org xxxxx」の名前が付いている。「xxxxx」の部分は下の表のとおり。

ワープロの「Writer」や表計算の「Calc」は、MSオフィスを使ったことがあれば、大方の操作はすぐつかめる。プレゼンテーションの「Impress」は、「PowerPoint」を見慣れた目には、違和感があるかもしれないが、スライド作成の手順はほぼ同じだ。数式エディターの「Math」は、MSオフィスと違って独立したアプリケーションになってはいるが、操作の基本は変わらない。HTMLエディター「HTML Editor」のユーザーインターフェイスや操作は、Writerとほとんど同じだ。OpenOfficeにあってMSオフィスにないのがドローツールの

「Draw」だ。機能的には、WordやExcelの画像描画ツールをもっと高度にしたものと考えればいい。

OpenOfficeが持つ6つの機能のうち、MSオフィスとの互換性が問題になるのは、Writer、CalcとImpressの3つ。

MSオフィスで作った文書が単純なものであれば、いずれもOpenOfficeで読み込むことができ、同じように表示される。だが、MSオフィスの機能をフルに使った凝った文書は、読み込んでもWriterでは表示が崩れたり、Calcでは計算式にエラーが出ることがある。

100パーセントの互換性とはまだ言えず、今後のバージョンにさらなる互換性を期待したいところだ。

・ OpenOfficeを使うための推奨環境

Windows Edition
OS : ウィンドウズ 9x/ME/NT(Service Pack 6以上)/2000/XP HDD : 250MB以上のシステム領域が必要
Linux Edition
OS : Linux kernel 2.0.7以上であること
UltraSPARC Edition(英語版のみ)
OS : Solaris7/8以上であること。ただし特定のパッチを当てている必要がある。左ページのOpenOffice.orgのサイト参照 HDD : 240MB以上のシステム領域が必要
MacEdition は 版

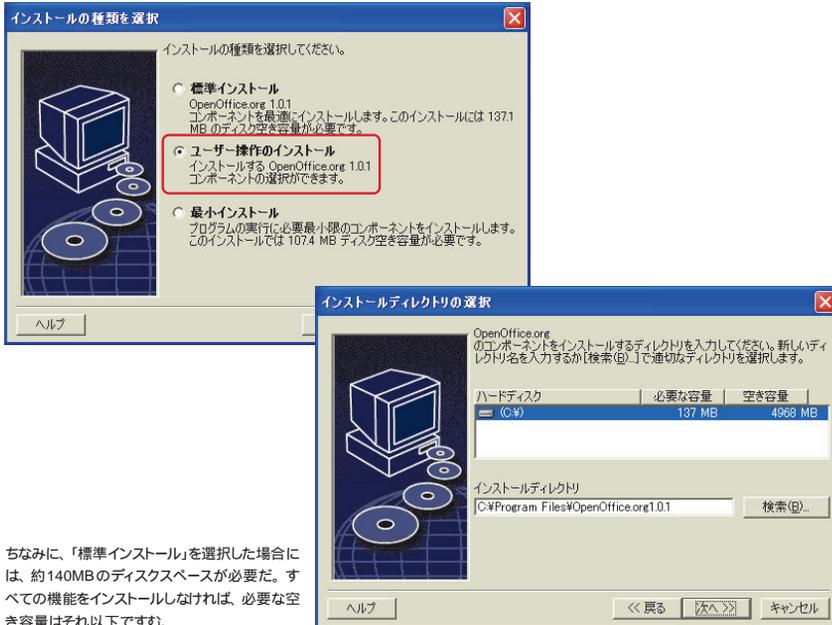
・ 各オフィス製品のスペックの違い

	ワープロ	表計算	プレゼンテーション	HTML文書作成	ドロー(図形描画)	その他
Microsoft Office XP Standard (実売価格: 5万1,800円)	Word	Excel	PowerPoint			メール、個人情報管理: Outlook
Microsoft Office XP Professional (実売価格: 6万2,000円)	Word	Excel	PowerPoint			データベース: Access メール、個人情報管理: Outlook
StarSuite 6.0 (実売価格: 1万円)	Writer	Calc	Impress		Draw	データベース: Base 数式エディター: Math
OpenOffice1.0.1(無料)	Writer	Calc	Impress	HTML Editor	Draw	数式エディター: Math
	Writerが持つ図形描画機能を利用すれば、Drawを使わなくても簡単な画像を作成できる。表内では合計、平均値、最大値、最小値や三角関数などの計算式も使用可。F2キーで数式バーが表示されるので、表計算ソフトと同じ手順で数式を入力。	最大3万2000行×256列までの表を作成可能。Excelに比べると小さいが、実用上は問題ない。関数はExcelより多く、数学、財務、論理情報、統計、データベース、日付と時刻など11カテゴリ合わせて全365種類が用意されている。	テキストや画像に動きやサウンドを付けられ、プレビュー画面でその効果を確認できる。興味深いのが「ライブ・プレゼンテーション」機能。スライド再生中にマウスで強調したい箇所のマッピングやオブジェクトの変更、削除、追加が可能。	HTML3.2対応だが、フレームやCSSには未対応。13種類のテンプレートと、背景画像とそれに合わせてテキストの色を設定した19種類のレイアウトの中から好きなものを選ぶだけでウェブページの原形を作れる「オートパイロット機能」付き。	直線や円などのオブジェクトを組み合わせて画像を構成する図形描画ツール。オブジェクトは直線、曲線、楕円、長方形のほか立体も利用できる。作った画像は、ウェブページやBMP、JPEG、GIF、PNGなどの形式でエクスポートすることも可能。	Mathは、Writerなど他の機能で「挿入(I)」[オブジェクト(O)] [数式(F)]... を選ぶと、Mathが自動的に起動。規則に従ってコマンドウィンドウに数式を記述すると、テキストウィンドウにその数式が表示される。

(注) Microsoft Office XP Developer、Microsoft Office XP Professional with FrontPage、Professional Special Editionには、HTML文書作成ソフトのFrontPageが収録されている。

現在の環境に合わせて、必要な機能だけをインストールするのがベター

インストール方法は一般的だ。ダウンロードしたファイルを解凍した中にある「setup.exe」をダブルクリックすればいい。あとは、画面に表示される指示に従っていっただけだ。



ちなみに、「標準インストール」を選択した場合には、約140MBのディスクスペースが必要だ。すべての機能をインストールしなければ、必要な空き容量はそれ以下です。

インストールの手順は、一般的なウィンドウズのアプリケーションと同じだ。インストーラーの起動後に表示されるダイアログの指示に従ってオプションを選択し、必要事項を記入したら、「次へ」ボタンをクリック。これを繰り返す。

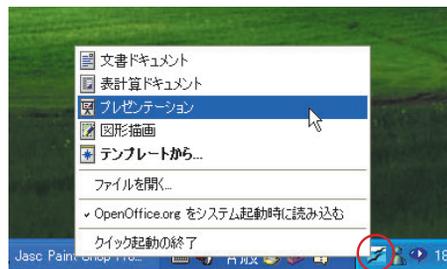
途中、インストール方法を指定する画面では、「標準インストール」「ユーザー操作のインストール」「最小インストール」の3つの選択肢から「ユーザー操作のインストール」を選ぼう(左上画面)。もしウェブページの編集に特定のソフトを使っていれば、HTMLエディターは不要だ。Mathは、必ずしも誰にでも必要ではないだろう。どうせ使わない機能なら、最初からインストールしないほうがいい。これを選ぶと、次にインストールするモジュールを選択する画面が表示されるので、そこで必要な機能だけをチェックする。

マイクロソフトオフィスを常に使うなら「関連付け」は外そう

インストール中にユーザーが指定するオプションは、通常、デフォルトのままが無難だが、時にはデフォルトとは別の選択肢を選んだほうがいいこともある。OpenOfficeについてもそうだ。



インストールが完了すると、タスクバー右端にある通知領域に「OpenOffice 1.0.1 クイック起動」アイコンが表示される。右のポップアップメニューは、クイック起動アイコンの右クリックから開く。



インストール方法に続いてインストール先を決めたら、次は関連付けの設定だ。左上画面の「Word」「Excel」「PowerPoint」にチェックを入れると、MSオフィスで作った文書ファイルをダブルクリックしたときに、OpenOfficeがそのファイルを開くようになる。

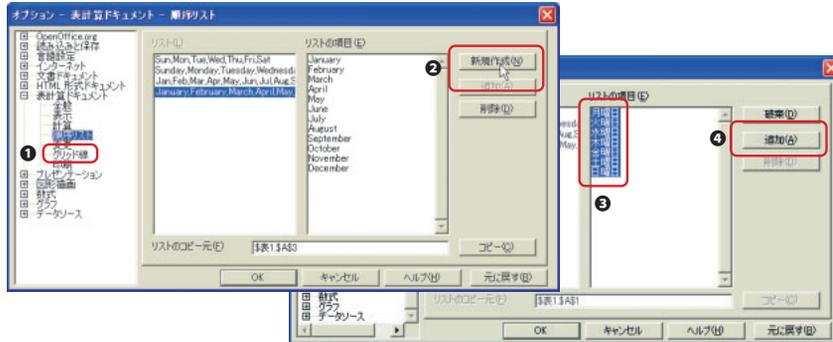
今後、すべての作業をOpenOfficeで行う覚悟があれば、チェックを入れたままでもいいが、そうでないなら外しておこう(左上画面)。「標準HTMLエディタ」は、ウェブページの編集にすでに決まったソフトを使っている場合は外しておくのがいい。

続いてJava環境の設定だ。コンピュータにJavaがインストールされていると、OpenOffice文書内にJavaアプレットを埋め込める。以上で設定が終わり、インストールが始まる。マシンにもよるが、インストール終了までに4~5分程度かかる。

実践編 3

日本語を登録してオートフィル機能をバイリンガルに

OpenOfficeは日本語に関して不備な点が目立つが、ユーザーレベルで解決できるものもある。その典型がCalcのオートフィル。設定リストに日本語を登録し、これをバイリンガルにしておこう。



連続したセルに「月曜日」と入力して、このセルを選択。選択範囲右下の「+」(フィルハンドル)をドラッグすると、「火曜日、水曜日……」と続きが自動的に入力されるようになった。

表計算ソフトで規則性のあるデータを入力するときに便利なのが、オートフィル機能。この機能は、文字データの連続入力にも有効だ。たとえば、「Monday」と入力してセル右下のフィルハンドルをドラッグすると、「Tuesday」「Wednesday」...「Sunday」と自動的に入力される。

Excel同様、Calcもオートフィル機能を備えているが、デフォルトのままでは日本語の連続入力ができない。この機能を十二分に活用しようと思ったら、連続入力したい単語を登録しよう。

方法は簡単だ。[ツール(T)]から[オプション(O)...]と選び、ダイアログ左のリストから「表計算ドキュメント」順序リスト(1)を選択。ダイアログ右の「新規作成(N)」(2)をクリックしてから、右側のリストに「月曜日」「火曜日」.....(3)などと入力。「追加(A)」(4)をクリックすれば完了だ。

実践編 4

多機能のダイアログで簡単に華やかに

特定の機能を実行するには、ツールバーやショートカットなど、いくつかの方法がある。OpenOfficeには、これらに加えて専用のダイアログボックスを使う方法が用意されている。



・「ギャラリー」ダイアログ

「ギャラリー」と「ハイパーリンク」の2つのダイアログは、Ctrlキーを押しながらウィンドウ上部にドラッグすると、ウィンドウ枠に固定される。解除するときは、Ctrlキーを押しながらウィンドウ下部にドラッグする。

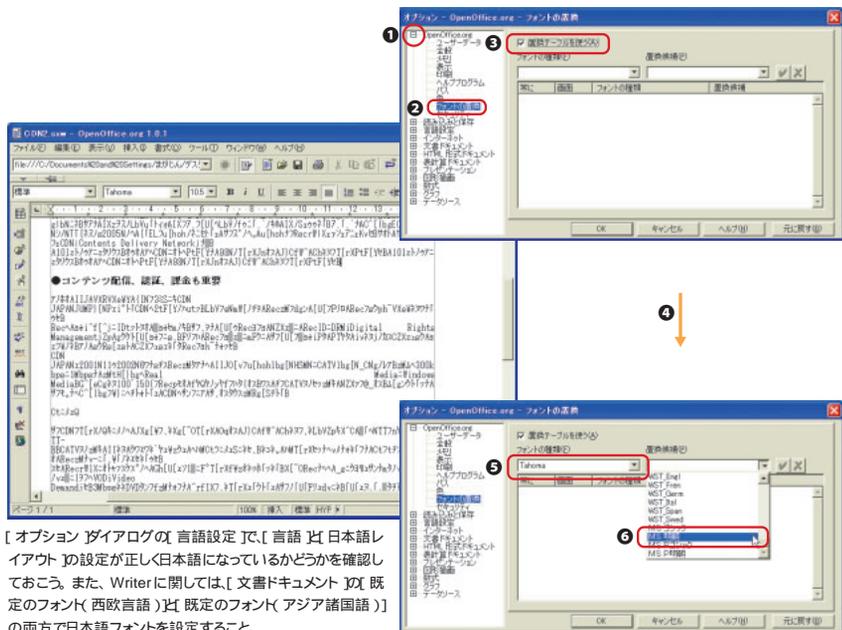
Writer、Calc、Impress、DrawとHTML Editorのツールバー上段に「ナビゲータ」「スタイルリスト」「ハイパーリンク」「ギャラリー」の4つのボタンが並んでいる。これらをクリックすると該当するダイアログが開く。

スタイルリストは書式の設定に、ハイパーリンクはコンピュータ内やインターネット上のファイルにリンクを設定するとき使う。文書にオブジェクトを挿入するとき使うと便利なのがギャラリーだ。ダイアログ内のオブジェクトをドラッグするだけで、文書に挿入できる。

ナビゲータは、特に大きな文書を編集するとき役に立つ。ナビゲータには、見出し図、表といった文書を構成する項目がリスト表示される。作業中の文書に使われている項目の左にはプラス記号が付き、項目名をダブルクリックするとその部分にカーソルが移動してくれる仕組みだ。

日本語文字の文字化けはフォントの置換オプションで事前に防ぐ

日本語版をインストールしたのに、日本語を入力できない、Wordで作った文書を読み込ませたら文字化けだらけ。こうしたトラブルを解消する方法がある。



[オプション] ダイアログの [言語設定] で、[言語] に [日本語レイアウト] の設定が正しく日本語になっているかどうかを確認しておこう。また、Writerに関しては、[文書ドキュメント] の [既定のフォント(西欧言語)] と [既定のフォント(アジア諸言語)] の両方で日本語フォントを設定すること。

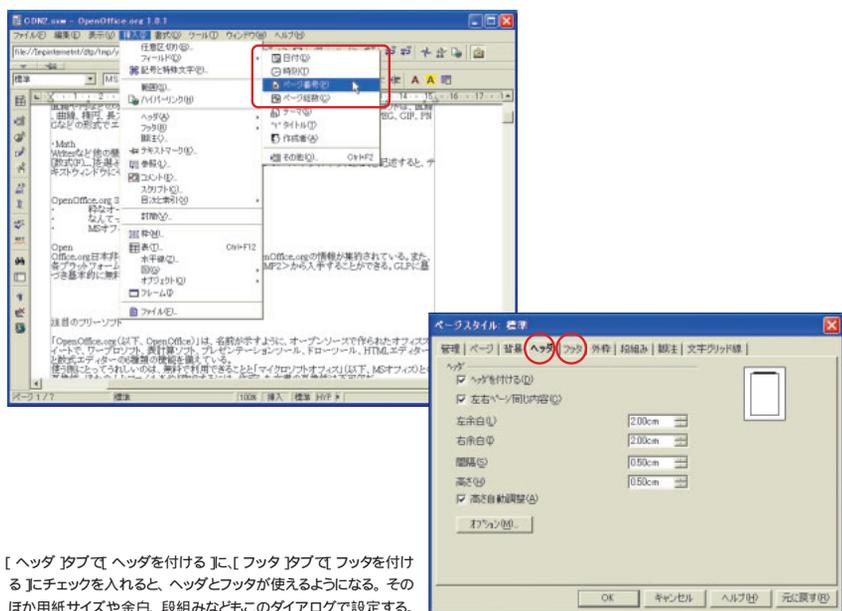
日本語版 OpenOffice 1.0.1 で日本語を使えるようにするには、[ツール(T)] から [オプション(O)...] を選んで [オプション] ダイアログを開く。OpenOffice の設定ダイアログはみな共通なので、Writer、Calc などのどの機能から開いてもかまわない。

まず、ダイアログに並んでいる項目の最上段にある [OpenOffice.org] 左側のプラス記号をクリックして(①) サブメニューを開き、[フォントの置換] をクリックする(②)。そして、[置換テーブルを使う(A)] にチェックを入れる(③)。次に、ダイアログの下に表示されるフォントを日本語フォントに置き換える設定を行う(④)。[フォントの種類(F)] で下のフォントを指定し(⑤)、[置換候補(P)] で MS ゴシックや MS 明朝などを指定すればいい(⑥)。

置換するフォントは、Albany、Thorndale、Century、Courier New、Times New Roman、Verdana など。

ヘッダ、フッタが使えない!? そんなときはページスタイルをチェック

良くも悪くもMSオフィスの作法に慣らされてしまったせい、しばしばOpenOfficeの操作手順に戸惑うことがある。WriterやCalcの作法に慣れること。それが、OpenOfficeのプロへの近道だ。



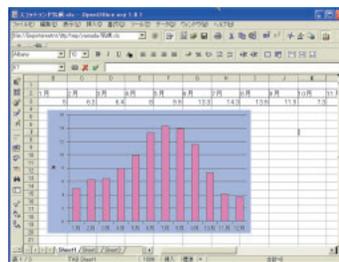
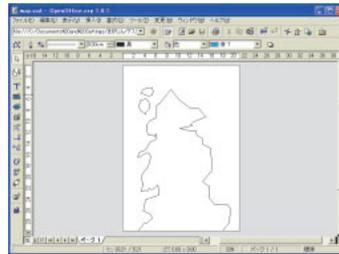
[ヘッダ] タブでヘッダを付けるに、[フッタ] タブでフッタを付けるにチェックを入れると、ヘッダとフッタが使えるようになる。そのほか用紙サイズや余白、段組みなどもこのダイアログで設定する。

Word で文書にページ番号を入れるには、[挿入(I)] から [ページ番号(U)] を選ぶ。ところが、Writer にこの方法は使えない。Writer では、[挿入(I)] [フィールド(D)] のサブメニューから [ページ番号(P)] や [日付(D)] [時刻(T)] を選ぶと(上画面)、カーソル位置にページ番号が表示される仕組みだ。「フッタ」にページ番号を入れるには、前もってフッタにカーソルを移しておかなければならないが、そもそも「ヘッダ」や「フッタ」の操作方法が Word とはまるで違う。ヘッダやフッタはデフォルトでは使えない。使えるようにするには、[書式(O)] から [ページ(G)...] を選び、[ページスタイル] ダイアログ(下画面) で設定を変更する。ヘッダ、フッタだけでなく、余白や用紙サイズなどページ全体に関する設定は、すべてこの [ページスタイル] ダイアログで決める。よくよく考えれば合理的な方法だ。

OpenOfficeの6つの機能はそれぞれ独立しているが、関係することでより大きな能力を発揮する。一例として、ここではWriter、DrawとCalcの3つの機能を使い、1つの文書を作ってみよう。



Drawはいわばキャンバス。挿入したテキストボックスや表などのオブジェクトの位置を動かして、もっとも見栄えのいい場所に配置しよう。各オブジェクトをダブルクリックすれば、内容を変更することもできる。



テキストに表や画像を組み合わせた文書は、Writerだけでも作れる。しかし、OpenOfficeには画像作成専門のDrawや表作成専門のCalcがある。一方、各機能で作ったデータは、それぞれほかの機能の文書中にオブジェクトとして挿入できる。

OpenOfficeのこうした機能を利用して、文章をWriterで、画像をDrawで、表やグラフをCalcで作成し、Draw上で1つの文書にまとめるのだ。注意が必要なのは、Writerではまずテキストボックスを作り、その中にテキストを入力すること。文章が完成したら、テキストボックスをコピーしてDrawにペーストする。

作ったオブジェクトをWriterでまとめることもできるが、Writerではテキスト中心のレイアウトにならざるを得ない。それに対して、Drawを使えばもっと自由なレイアウトが可能だ。

まだまだ開発途上なので次のバージョンに期待！

OpenOfficeが
選ばれる3つの理由

どんどんバージョンアップ

利用者の意見が反映される

XMLをベースにした将来性

日本語版最新バージョンのOpenOffice 1.0.1は、縦書きサポート、ヘルプ画面の日本語化など日本語対応が大きく進んだ。

とはいえ完璧というにはまだほど遠い。たとえばWriterでは、行頭に句点(。)がくるなど禁則処理が正常に動作していない。文章中に半角ハイフン(-)や半角スペースが入ると、とんでもない場所で強制改行されてしまう。半角スペースをCtrl + スペースキーで、半角ハイフンをCtrl + Shift + マイナス(-)キーで入力すれば解消できるが、そんなことをしなくてすむよう改善してもらいたい。

MSオフィスとの互換性ももう一歩だ。160ページで説明した処置を施せば、読み込んだWordやExcelファイルが文字化けだらけという事態は避けられる。だが、Wordファイルの書式の設定によっては文

字間隔が詰まってしまうことがまだ多々ある。テキストボックスも問題で、レイアウトが崩れることもしばしばだ。

どちらもWriterで読み込んだ後で書式を設定しなせば、問題を解消することはできる。そんなことに手間と時間を費やすくらいなら、MSオフィスのままでいいということになりかねない。

とはいえ、現時点でOpenOfficeは使えないと結論を出すのは禁物だ。オープンソース化されたOpenOfficeは急速に進化している。これからも、ユーザーの声が反映された新バージョンが頻りにリリースされるに違いない。ファイル形式にウェブページ記述言語として注目され、実用化が進んでいるXMLを採用した先見性も気になるところだ。結論を下すのは、もっと成熟したバージョンが出てからでも遅くない。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp